

# 序 章

# 1. 第9次総合計画策定にあたって

## (1) 第9次総合計画策定の背景と趣旨

### 人口減少社会と地方創生への流れ

長与町(以下、「本町」という)はこれまで、平成23年度から平成32年度を計画期間とする基本構想を策定し、その将来像である「郷の和気、夢・緑・創造のまち ながよ」の実現を目標とした行財政運営を行っています。

こうしたなか、我が国では、本格的な人口減少問題の克服と成長力の確保を図るために、平成26年度より、まち・ひと・しごと創生と好循環の確立を目指す「地方創生」の取組がスタートしました。地方自治体では、人口流出の抑制や出生率の向上、さらには都市部からの人の流れを呼び込むために、これまで以上に創意工夫と付加価値の高い行財政運営が求められています。

### 転換期を迎えた長与町のまちづくり

本町は、長崎市に隣接する好立地条件を背景に、高度経済成長期以降の住宅開発とそれに伴う人口増加により町の姿が形成されてきました。現在でも土地区画整理事業等による一定の人口増加が期待されており、将来の人口規模に応じた計画的なまちづくりが求められています。

しかし、全国的な人口減少の流れは本町にとっても例外ではなく、平成22年国勢調査において昭和44年の町制施行以来はじめて人口が減少に転じました。現状のままでは将来的な人口減少と少子高齢化は避けられない状況であり、今後は人口減少を抑制するとともに、少子高齢化社会でも安心して暮らせる、成熟型のまちづくりへの転換が求められています。

### 新しいまちづくりの指針となる第9次総合計画の策定へ

長与町第9次総合計画(以下「本計画」という)は、中長期的な人口減少問題を克服するとともに、持続可能なまちづくりの指針として、平成28年度から平成32年度までの5年間に於いて具体的に展開する政策・施策を体系的に示すものです。

## (2) 計画の構成と期間

本計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成します。それぞれの性格や計画期間は以下のとおりです。なお、本町では、地方創生に向けた指針となる「長与町まち・ひと・しごと創生総合戦略(計画期間平成27年度～平成31年度)」を別途策定していますが、本計画は、「長与町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含したものであり、一体のものとして推進を図ります。

### ①基本構想

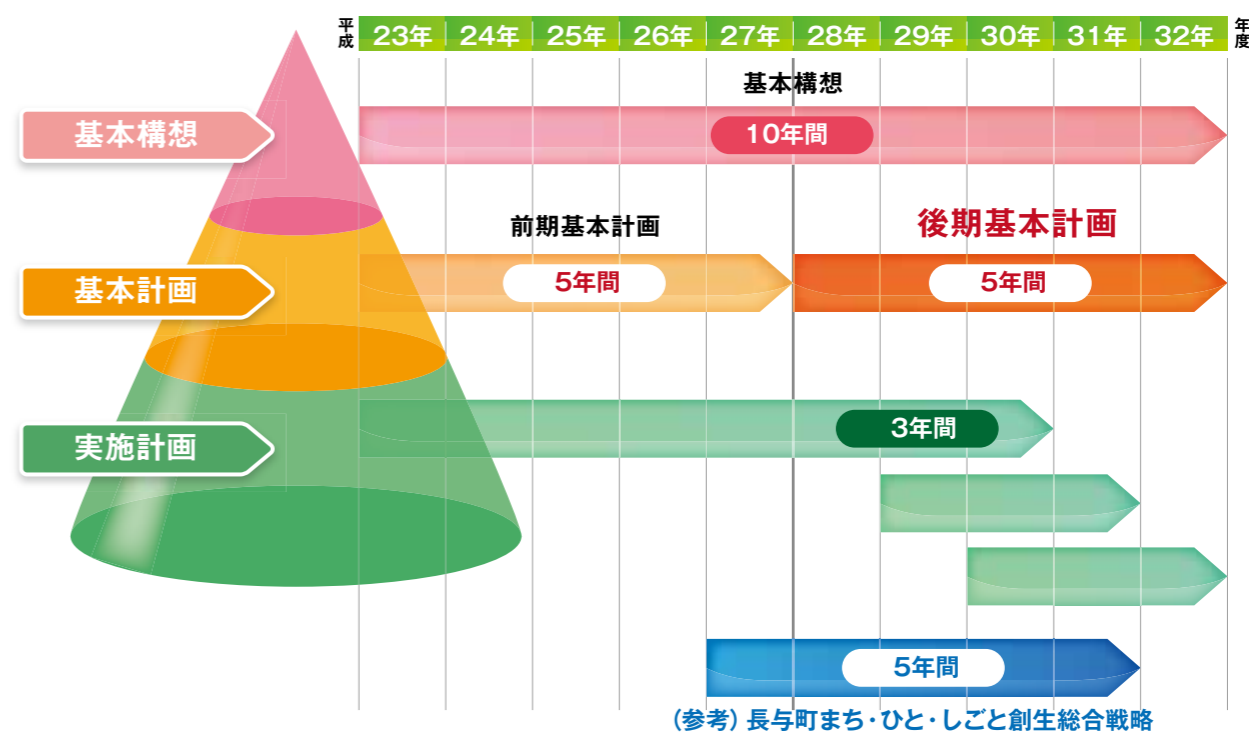
本町が目指す将来像を明らかにし、その実現のための基本的なまちづくりの方向性を示すものです。現基本構想は、議会の議決を経て平成23年度から平成32年度までの10年間の構想として策定されており、今回は改訂対象ではありません。

### ②基本計画

まちづくりの各分野における具体的な施策や目標を示したものです。前期基本計画は平成23年度から平成27年度までの5年間であるため、平成28年度から平成32年度を目標年度とする後期基本計画として見直しを行います。

### ③実施計画

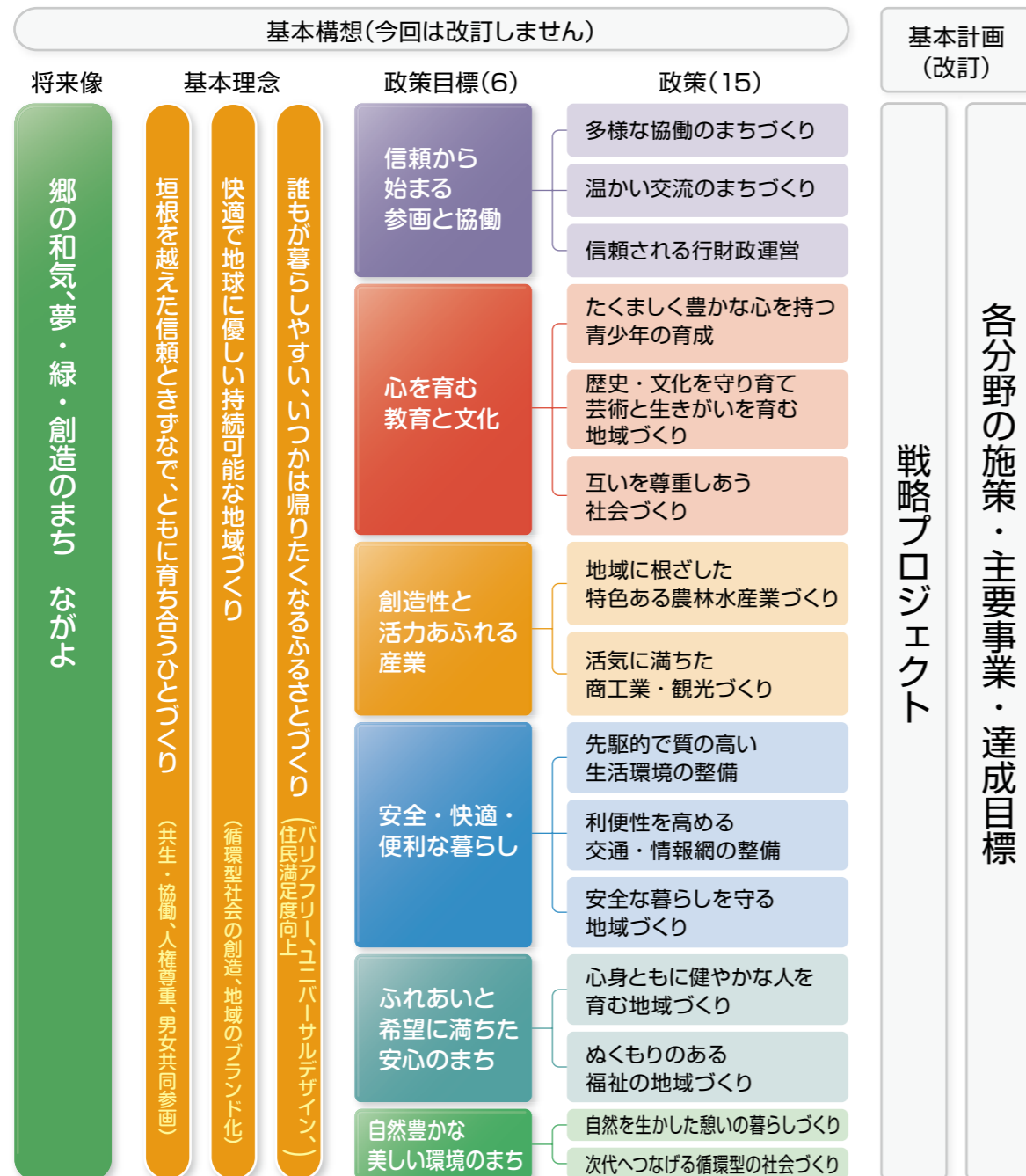
基本計画に示した施策・事業を実行していくための年次計画です。計画期間は3年間となり、毎年ローリング方式により見直しを行います。



(参考) 長与町まち・ひと・しごと創生総合戦略

### (3) 計画策定についての考え方

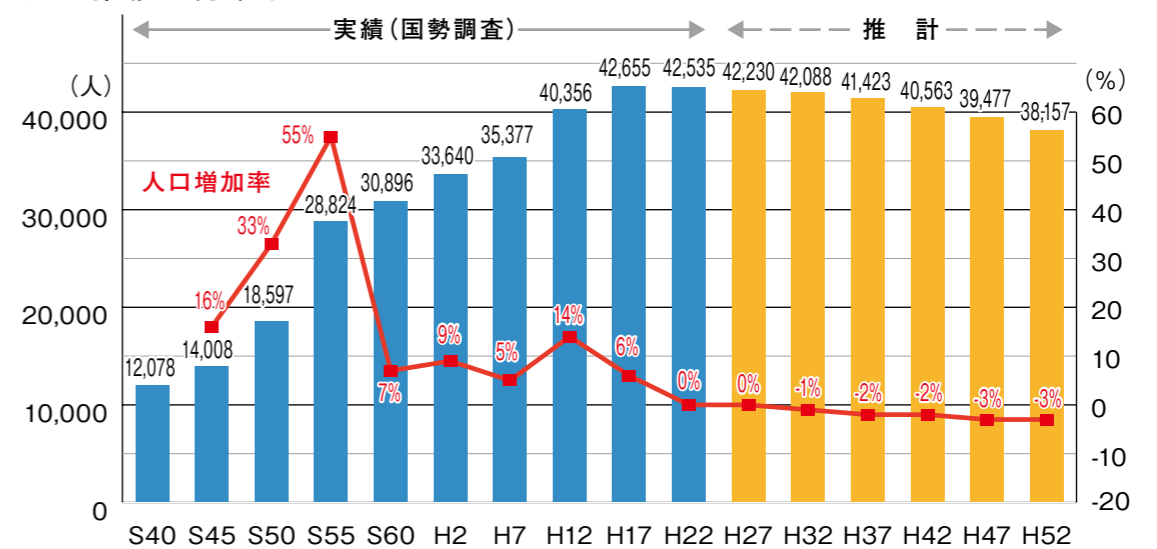
本計画は、将来像を実現するために、社会状況の変化や町民ニーズ、前期基本計画の実績や課題を反映した計画としました。また、国や県の施策や本町の個別計画との整合性を勘案しながら、基本構想で示された15の政策に従い、具体的な施策や主要事業、達成目標を体系的に示しています。さらに、これまで以上に戦略的で重点的な施策展開を図ることを目的に「戦略プロジェクト」を新たに設定し、特徴的でメリハリのあるまちづくりを展開します。



### (1) 長与町の人口

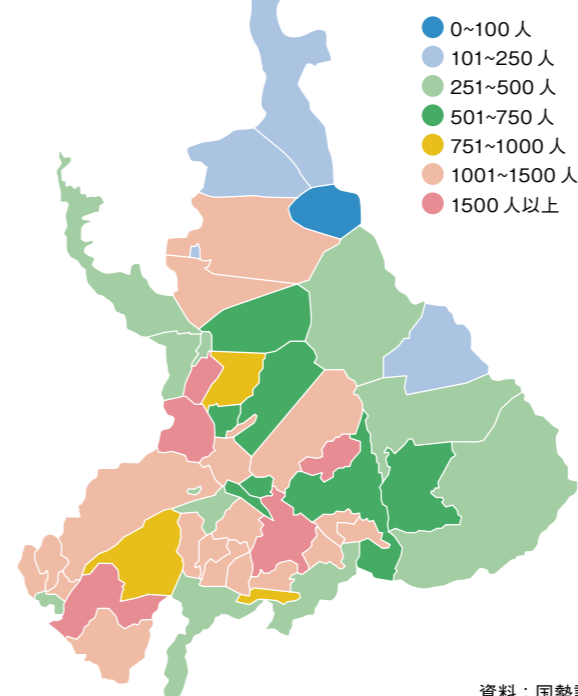
本町の人口は平成22年国勢調査によると42,535人となっており、昭和44年の町制施行以来はじめて減少に転じました。国立社会保障・人口問題研究所によると、今後も緩やかな減少が続くと予想されています。また、人口分布状況を見ると、町の中心部と長崎市に接する高田地区に人口が多い一方、周辺部は人口が少なく高齢化率が高いという特徴が見られます。

人口推移と将来予想(単位:人)

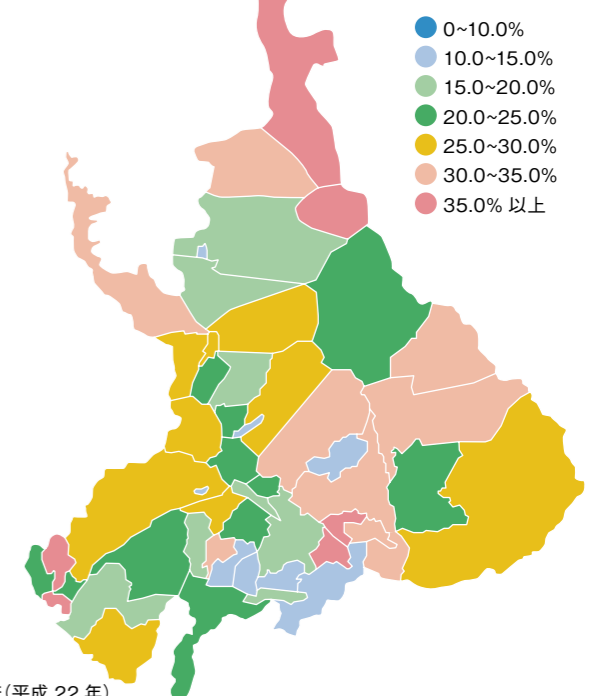


資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計(平成25年12月)

人口分布



高齢化率



資料: 国勢調査(平成22年)

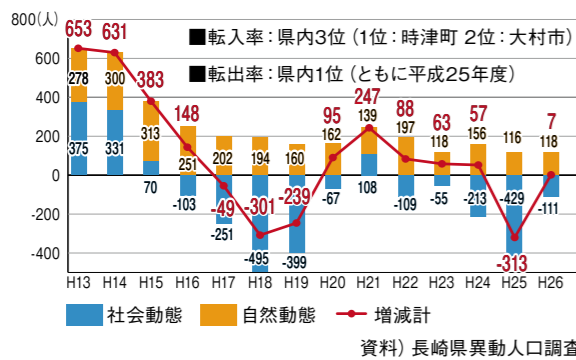
## (2) 長与町の生活環境

本町の生活環境の強み・弱みを客観的視点から明らかにするために、「快適度」、「住居水準充実度」、「利便度」、「安心度」、「財政安定度」の5つの視点で分析を行いました。

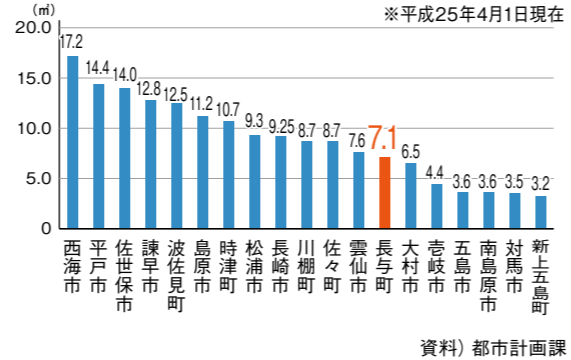
### ① 快適度

転入・転出状況、新設住宅着工戸数、下水道普及率は、県内トップクラスの水準にあり、中でも下水道普及率は非常に高い水準にあります。

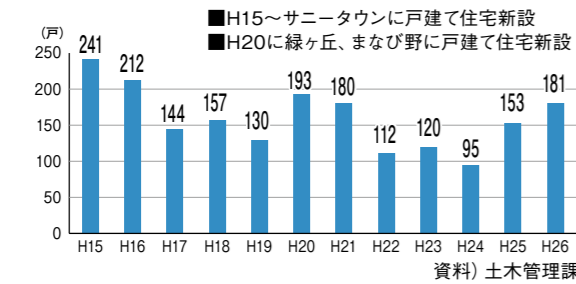
#### ア) 転入・転出人口 ※各年(1~12月)



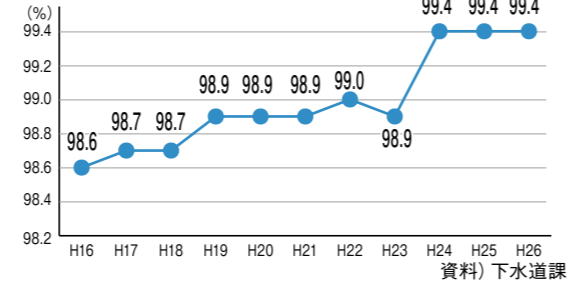
#### イ) 都市公園面積 (人口あたり)



#### ウ) 新設住宅着工戸数



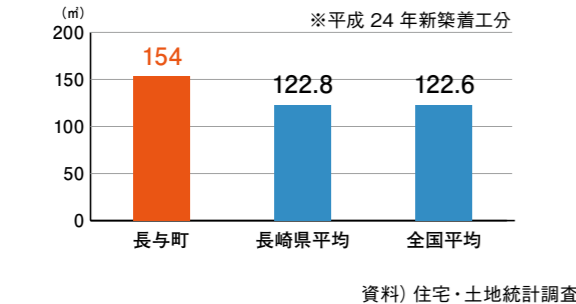
#### エ) 下水道普及率



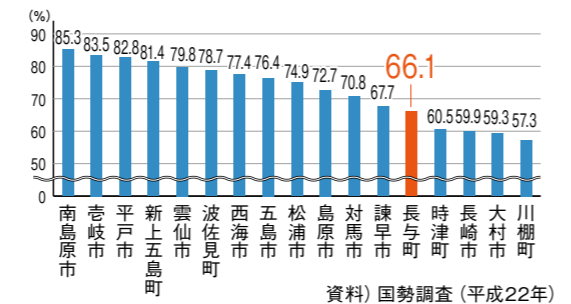
### ② 住居水準充実度

住宅延べ床面積は県平均や全国平均を上回っていますが、持ち家比率は低い(借家率が高い)状況です。本町での社会移動の要因のひとつに、賃貸から住み替える際の町外への転出傾向が見られることから、今後は、町内での住み替え促進を図るためのさらに充実した住宅環境づくりが求められます。

#### ア) 住宅延べ床面積 (世帯あたり)



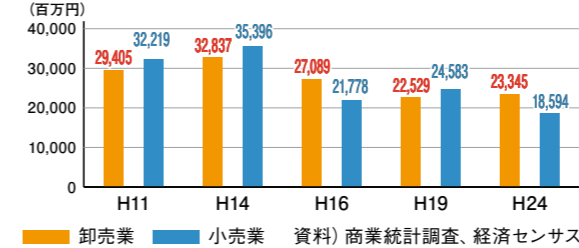
#### イ) 持ち家世帯比率



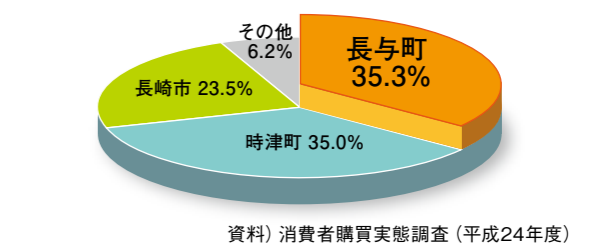
### ③ 利便度

本町の年間商品販売額は減少傾向にありますが、生活レベルでの買い物環境は、隣接する時津町や長崎市と一体となった商圏が形成されており、一定の利便性は確保されていると言えます。ただし、交通渋滞などアクセス面の課題も抱えており、町内での商業環境の充実を求める意見も見られます。

#### ア) 年間販売額の推移



#### イ) 消費者購買動向 (全商品平均)



### ④ 安心度

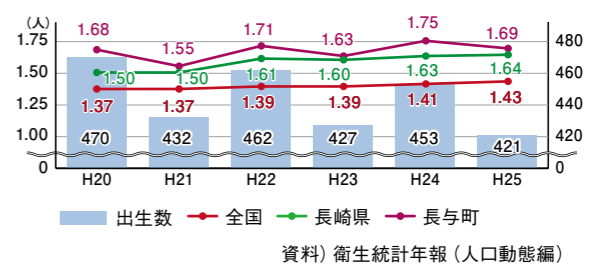
本町は人口10万人あたりの病院数、病床数とも全国平均を下回っていますが、隣接する長崎市が生活圏域に含まれており、総合的には医療環境は良好な状況にあると言えます。また、合計特殊出生率も全国平均以上となっています。

#### ア) 医療

		(施設/10万人)			
		長与町	長崎市	全国	長崎県
施設数	病院	4.7	11.2	6.7	11.3
	一般診療所	79.8	131.9	98.5	101.1
病床数	病院	563.2	2,338.9	1,237.7	1,926.4
	一般診療所	213.5	280.4	98.5	328.0

資料) 医療施設調査(平成24年)

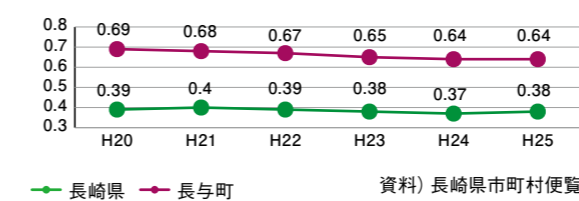
#### イ) 合計特殊出生率



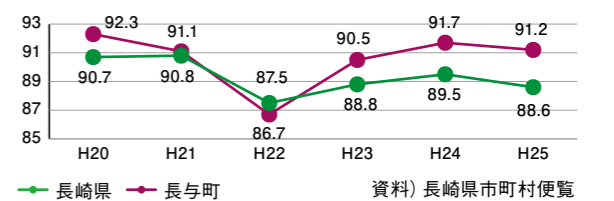
### ⑤ 財政安定度

本町の財政運営は、**財政力指数**※やその他の財政指標によると現在は安定的な状況にありますが、**経常収支比率**※が県平均よりも高い水準にあり、財政構造の硬直化が見られます。さらに、今後の高齢化の進行や公共施設の老朽化に伴う新たな財政支出が予想されるなど、予断を許さない状況です。今後も計画的で健全な財政運営が求められます。

#### ア) 財政力指数



#### イ) 経常収支比率



2. 長与町の現状と主な課題

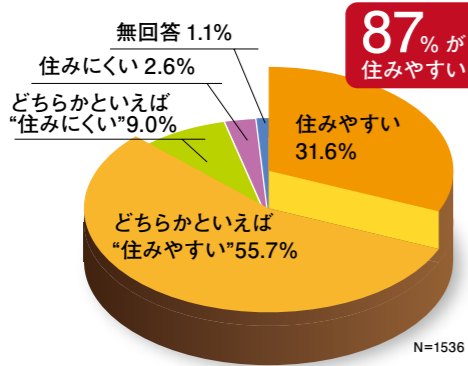
### (3) 町民意識調査結果から見た町民ニーズ

本計画の策定にあたって、町民の皆様の意見を反映するため、施策の満足度や重要度などについて、平成 26 年 9 月に町民意識調査を実施しました。

(実施時期)平成 26 年 9 月実施 (対象)長与町内在住の満 18 歳以上の男女 4,000 人(無作為抽出)  
(手法)郵送方式 (有効回答数・回収率)有効回答数：1,536 件・回収率：38.4%

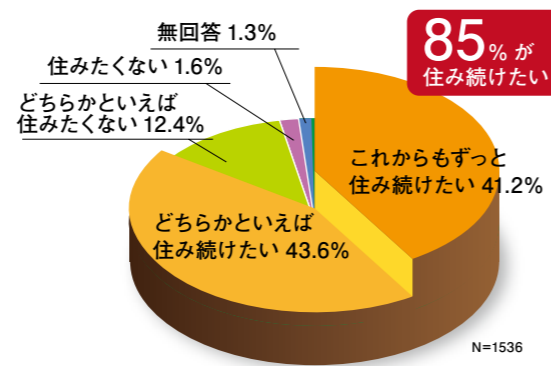
#### 住みやすさ

「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計は 87%と、住みやすさに対する評価は高くなっています。



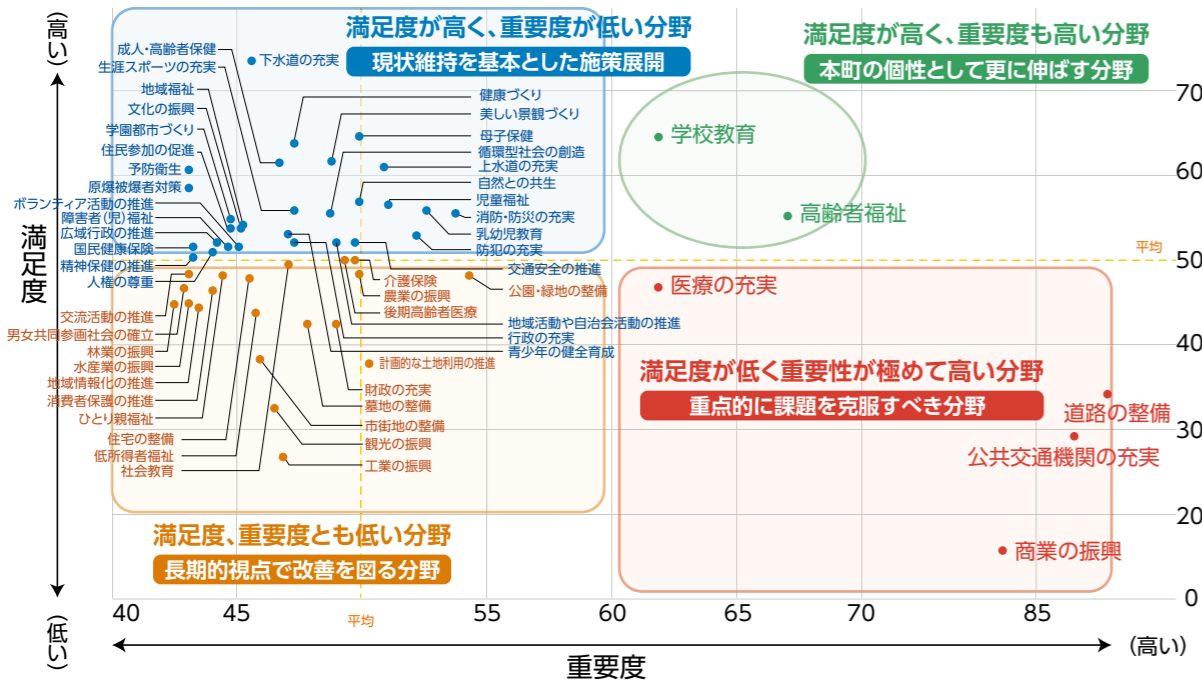
#### 今後の定住意向

定住意向は 85%と高くなっています。一方、住みたくない理由は、交通の便や買い物環境の悪さなどが挙げられています。



#### まちづくりの満足度・重要度

満足度が低かつ重要度が高い分野は、「商業」、「公共交通機関」、「道路整備」などであり、重点的な改善が必要です。一方、満足度が高く重要度も高い分野としては「学校教育」や「高齢者福祉」などで、本町の個性を活かせる分野としてさらに力を入れる必要があります。



### (4) まちづくりの主な課題

町民意識調査では、現在のまちのイメージとして、自然が豊かな町、犯罪や災害が少なく安全な町というイメージが多く選ばれています。さらに、将来のまちのイメージとして、子育て支援や子育て環境が充実している町、保健・医療・福祉が充実している町、子どもの教育環境が充実している町というイメージが多く選ばれています。

今後のまちづくりは、町民が望む将来のまちのイメージに近づけるため、安全・安心なまちづくりを基本に、本町の弱みを克服する施策と強みを活かし付加価値を高める施策を両輪として展開していくことが求められています。実現にあたっては、中心市街地を核とした、バランスのとれた都市機能の配置とネットワーク化を基本に、地域の資源や個性を活かしたまちづくりを進めることで、コンパクトで機能的なまちを目指す必要があります。

#### 現在のまちのイメージ

- 自然が豊かな町 ●長崎市のベッドタウン ●犯罪や災害が少なく安全な町

#### 将来のまちのイメージ

- 犯罪や災害が少なく安全な町 ●子育て支援や子育て環境が充実している町
- 保健・医療・福祉が充実している町 ●子どもの教育環境が充実している町
- こだわりのショップが多くおしゃれな町

#### まちづくりの主な課題



進む民間開発と連携した 戦略的なまちづくりの展開

近い将来に大型商業施設の立地が見込まれるなか、中心市街地を核とした、バランスのとれた都市機能の配置と地域資源や個性を活かしたまちづくりを両輪として進め、公共交通で有機的に結ぶことにより、コンパクトで機能的なまちを目指す必要があります。

